

# 馬獣医のよもやま話 ①7 敷地光盛獣医師

## ボディコンディションスコアの繁殖成績への影響について

浦河診療所 敷地 光盛  
 平成12年 北海道大学卒業  
 同年4月 日高軽種馬農協入社  
 荻伏診療所を経て、現在浦河診療所勤務

仔馬もちらほら見られるようになり、繁殖シーズンの始まりです。さて皆さんはボディコンディションスコア（以下BCS）という言葉を知っているかと思いますが。馬の太り具合を数値化したもので、肋骨、背中、お尻などを触って誰でも簡単に測定出来るのが特徴です。肋骨にスポンジ状に脂肪が乗り、見た目では肋骨が見えずお尻が少し割れた状態、これがBCS6です（図1）。繁殖牝馬の理想的なBCSとされています。お尻が平坦を通り過ぎてとがってくるとBCS5を下回っています。

### BCS 6



少し肉付きがよい。背中央にわずかな凹みがある。肋骨の上の脂肪はスポンジ状。

軽種馬飼養標準(2004年)より引用

図1

昨年までの5年間に日高で繁殖牝馬1300頭のBCSと繁殖成績の関係について調査しました。今回はその結果を紹介させていただきます。まず繁殖シーズン最初のBCSが5を下回っていると、そのシーズンの種付け回数が増える傾向があります。

種付け時点のBCSは低いほど受胎率は低下しますが、さらに重要なのが種付け後のBCSの変動です。初回妊娠鑑定までにBCSが上昇した馬は低下した馬よりも10%ほど受胎率が高くなりました（図2）。胎子が早い段階でいなくなってしまうことを早期胚死滅（EEL）といいます。種付け後5週間ごろの再妊娠鑑定において、BCSが6未満の馬は6以上の馬に比べて、またそのときまでにBCSが低下した馬は上昇した馬に比べて、3倍近くの確率で早期胚死滅が起きました（図3、4）。

BCS変動と受胎率  
 (交配0日～16日)

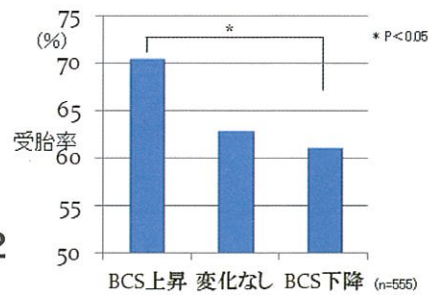


図2

BCSと早期胚死滅(EEL)発生率  
 (交配後35日)

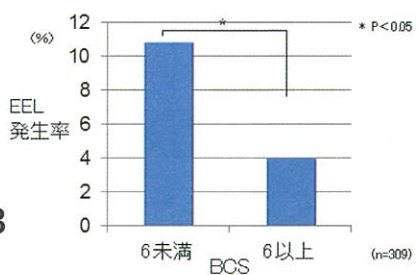


図3

BCS変動とEEL発生率  
 (交配後16日～35日)

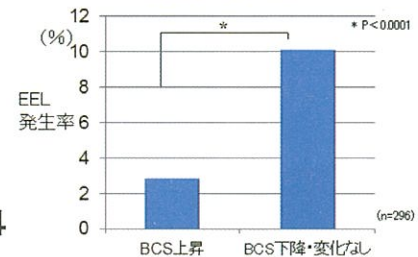


図4

シーズン中発情が来なくなることを経験されたことがあると思います。これを卵巣静止といいます。これも栄養状態と関係があります。BCS5未満の馬では6以上の馬に比べて、なんと10倍も卵巣静止になるリスクが高いという結果でした。

繁殖成績の良し悪しにはいろいろな要因がありますが、栄養（今回はエネルギーに関する話です）はその重要な要因の一つであることがわかりただけだと思います。今回の調査結果から、『BCS5.5前後で種付けをしてその後5週妊娠鑑定まで徐々にBCSを6以上に上昇させる』ことで受胎率向上、胚死滅と卵巣静止予防に効果がありそうです。今年は繁殖牝馬のBCSに注目してみたいかがでしょうか？